

芦屋市のまちづくりについての 市民意識調査 調査結果報告書 概要版

令和6年1月

芦 屋 市

目 次

● 調査概要

1 調査の目的.....	1
2 調査方法.....	1
3 配布・回収.....	1

● 調査結果

1 お住まいの地域での生活や住みやすさについて.....	2
2 芦屋市のまちづくりの目標の達成状況などについて.....	5
3 市民マナー条例について.....	7
4 文化的なふれあいや学びについて.....	8
5 新型コロナウイルス感染症の影響について.....	10

報告書を読む際の注意事項

- ✧ 比率の合計は、小数点第二位を四捨五入している関係から、内訳の合計と一致しない場合があります。
- ✧ 「2つ以上を選択」の複数回答設問については、回答者数を母数として出現率を算出しているため、出現率の合計が100%を超える場合があります。
- ✧ 属性別のクロス集計のうち、年代別の「10歳代」（32件）、地区別の「奥池地区」（27件）については回答者数が少なく、誤差が大きいことから結果の利用には注意が必要です。

1 調査の目的

令和3年9月に策定した第5次芦屋市総合計画前期基本計画に係る各施策の進捗状況把握及び評価のため、「市民意識調査」を実施しました。

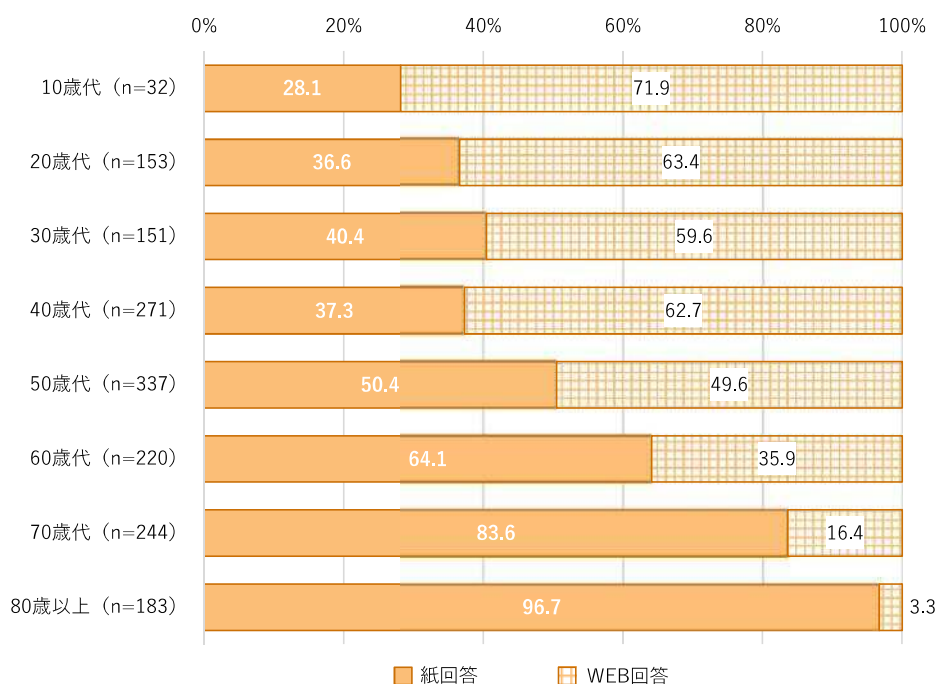
2 調査方法

調査対象	芦屋市在住の18歳以上の市民3,000人 (令和5年(2023年)6月1日現在の住民基本台帳登録者)
調査対象の抽出方法	過去の市民意識調査における年代別の回答傾向を踏まえ、想定される回答サンプル数の年代別・地区別の構成比が実際の芦屋市の人口構成に近似するように抽出サンプル数を想定した上で、住民基本台帳から無作為抽出しました。
調査方法	1. 郵送による配布・回収(督促状を1回送付) 2. パソコン・スマートフォン等によりWEBで回答 (郵送によるアンケート票にWEB回答の案内を印刷)
調査期間	令和5年(2023年)6月14日(水)～6月30日(金)

3 配布・回収

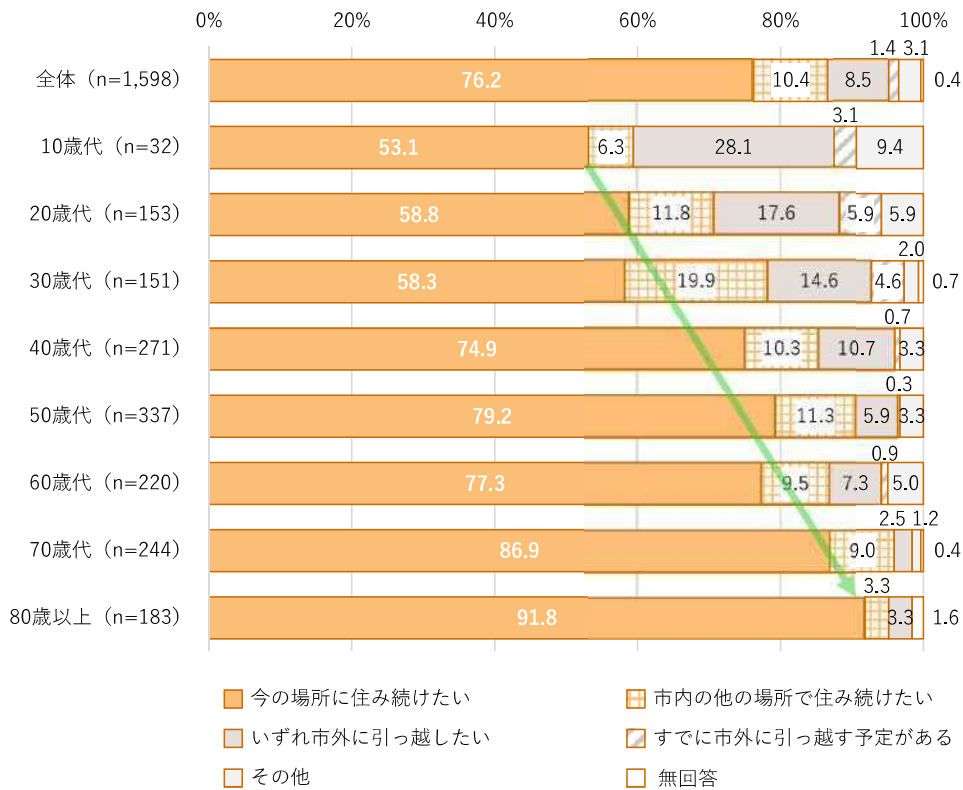
	件数	備考
① 対象者数	3,000	
② 有効配布数	2,997	未配達3件
③ 有効回答数	1,598	用紙回収: 926件(無効2件除く)、WEB回収: 672件
④ 有効回収率	53.3%	③ 有効回答数 ÷ ② 有効配布数

● 回答方法(年代別) ●



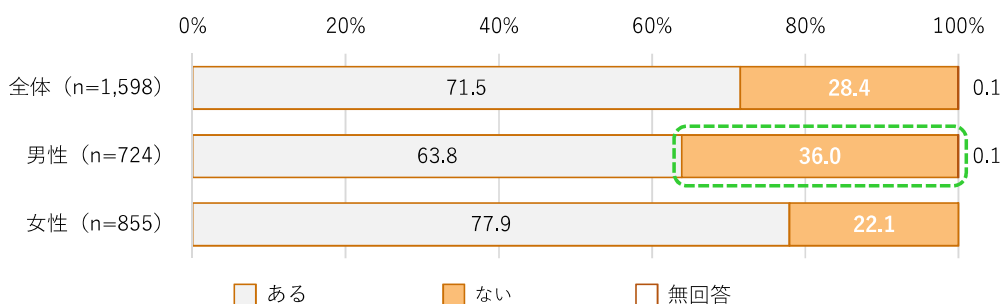
1 お住まいの地域での生活や住みやすさについて

- あなたは、（転勤等による移転予定の有無に関わらず）今のお住まいにずっと住んでいたいと思いますか。



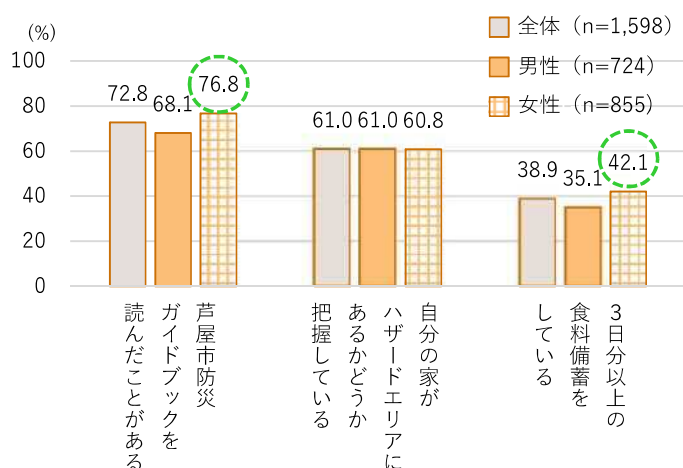
年代別では、「今の場所に住み続けたい」が10歳代から30歳代で6割未満となっていますが、概ね年代が高い程、定住意向が高くなる傾向がみられ、70歳以上で8割を超えています。

- あなたは、家族や親族以外で、日々の生活の中で困りごとが発生したときに相談できる人（友人、知人、民生委員等）や場所がありますか。



性別では、男性で「ない」が36.0%と女性より13.9ポイント高くなっています。男性が相談しやすい環境づくりを検討していく必要があります。

◆ 地震や津波、大雨、暴風など、自然災害の発生に対し、日頃から備えていることはありますか。



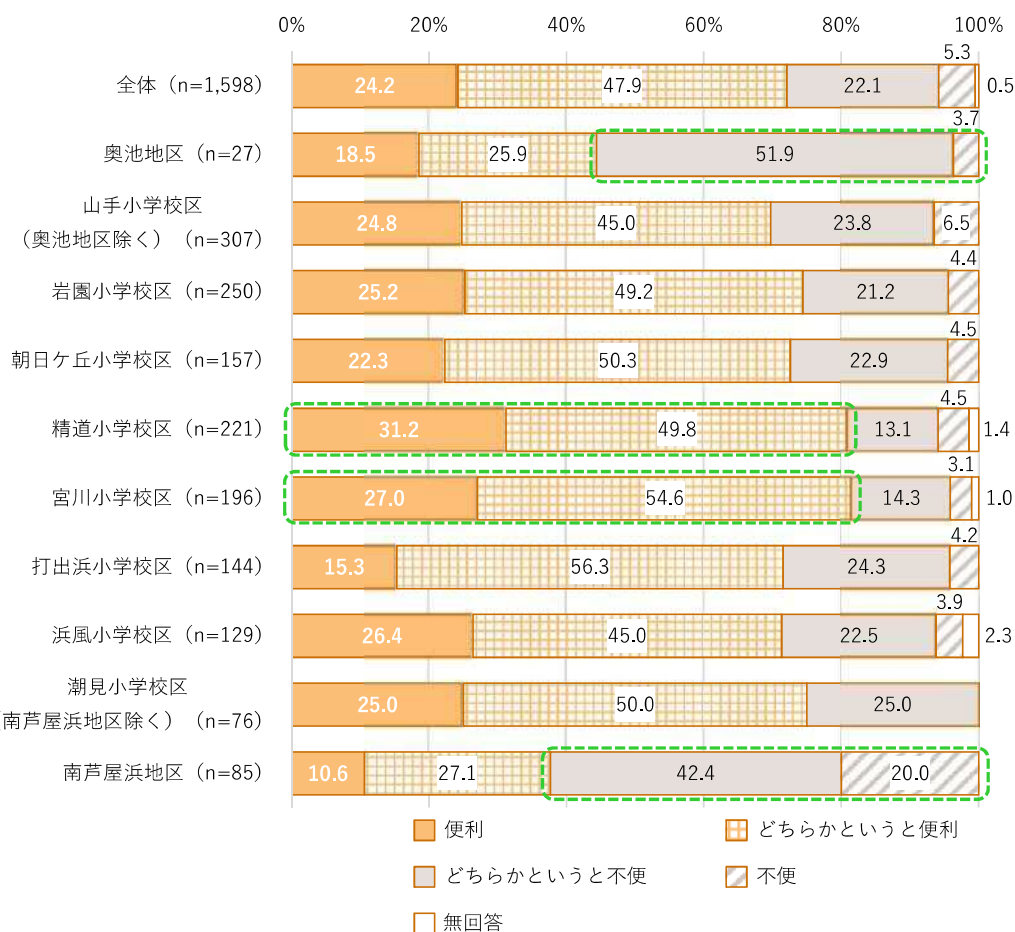
性別では、男女ともに「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」が最も高くなっているものの、女性で76.8%と男性より8.7ポイント高くなっています。

また、「3日分以上の食料備蓄をしている」は女性で42.1%と男性より7.0ポイント高くなっています。

男性の行動促進に向け、周知に努めていく必要があります。

※ 全体数値での上位3位を掲載

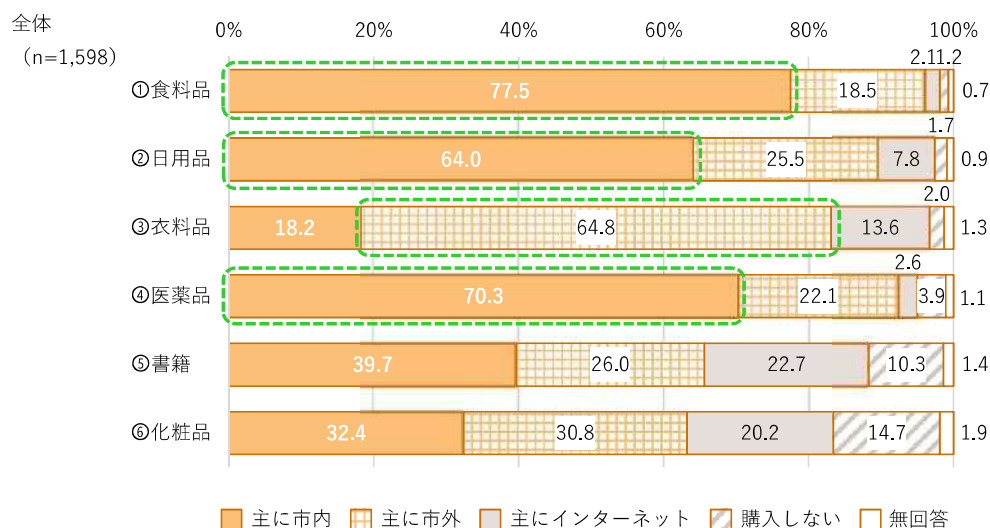
◆ あなたは、徒歩、自転車、自家用車、公共交通などの手段に関わらず、市内の移動の便利さについて、どのように感じていますか。



地区別では、市内の移動が『便利』（「便利」＋「どちらかという便利」）だと思える割合は、精道小学校区と宮川小学校区で8割を超えています。

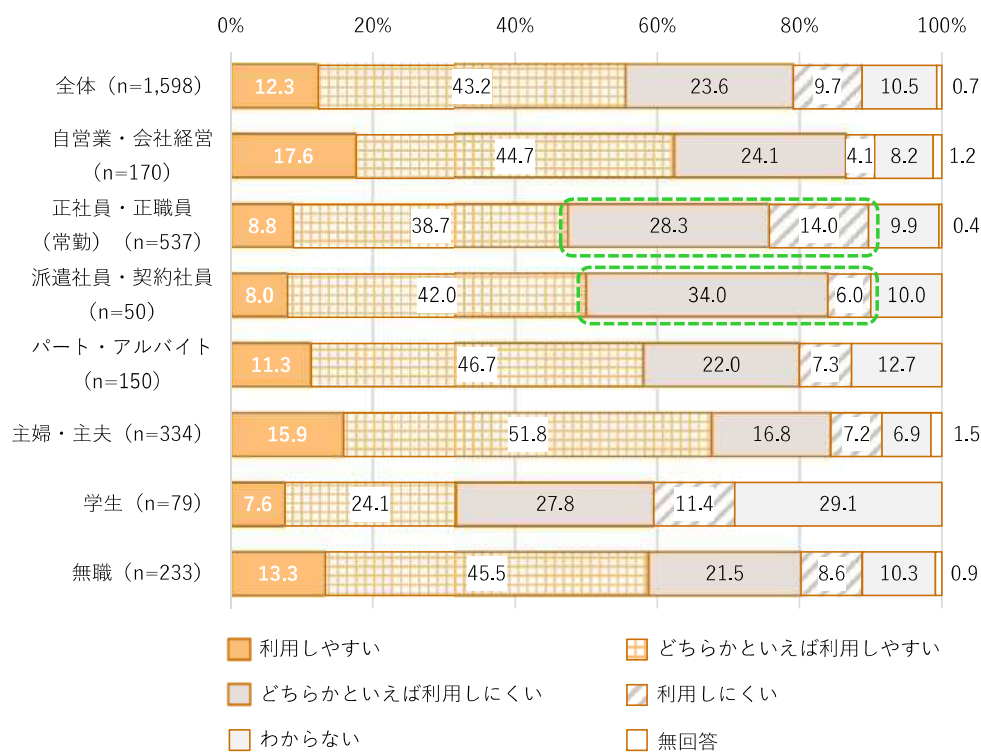
一方で、『不便』（「どちらかという不便」＋「不便」）だと思える割合は、奥池地区と南芦屋浜地区で5割を超え他の地区より高くなっており、市内中心部から遠い程、不便と感じる傾向がみられます。

◆ あなたは、下記の用品について普段どこで購入されていますか。



全体では、① 食料品、② 日用品、④ 医薬品は、「主に市内」が6割を超えており、調達頻度が高いものについては、市内での購入割合が高くなっています。

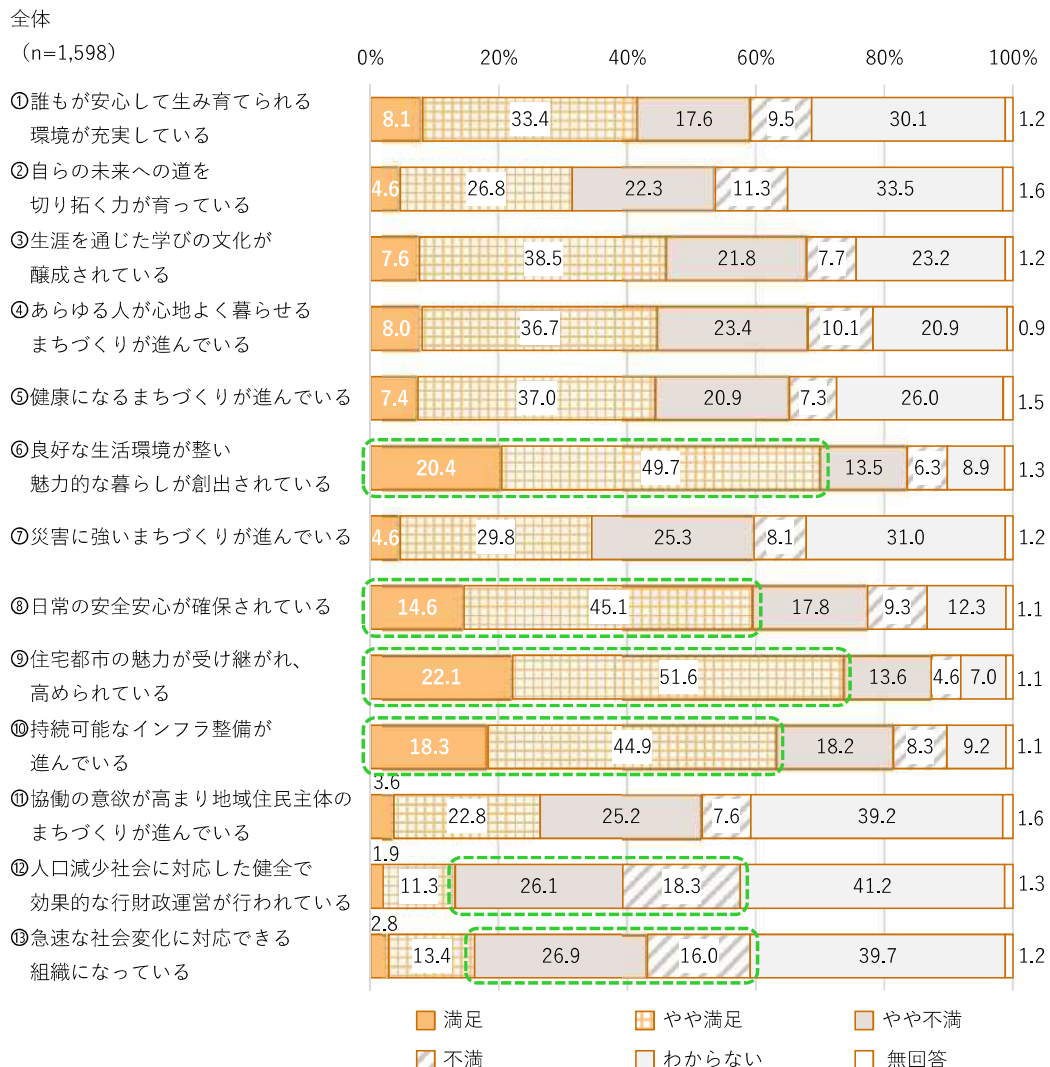
◆ あなたは、市役所への届け出や書類申請などの手続きについてどのように感じていますか。



職業別では、正社員・正職員（常勤）、派遣社員・契約社員で『利用しにくい』（「どちらかといえば利用しにくい」＋「利用しにくい」）が4割を超えています。日中は仕事があるため、市役所が開いている平日の時間に手続きをしづらいことが要因の1つと推察されます。

2 芦屋市のまちづくりの目標の達成状況などについて

- ◆ 下表に示す 13 の項目は、第 5 次芦屋市総合計画（令和 3 年度～令和 12 年度）の基本構想に掲げる施策の目標です。13 項目それぞれについて、芦屋市の現状をどのように感じていますか。



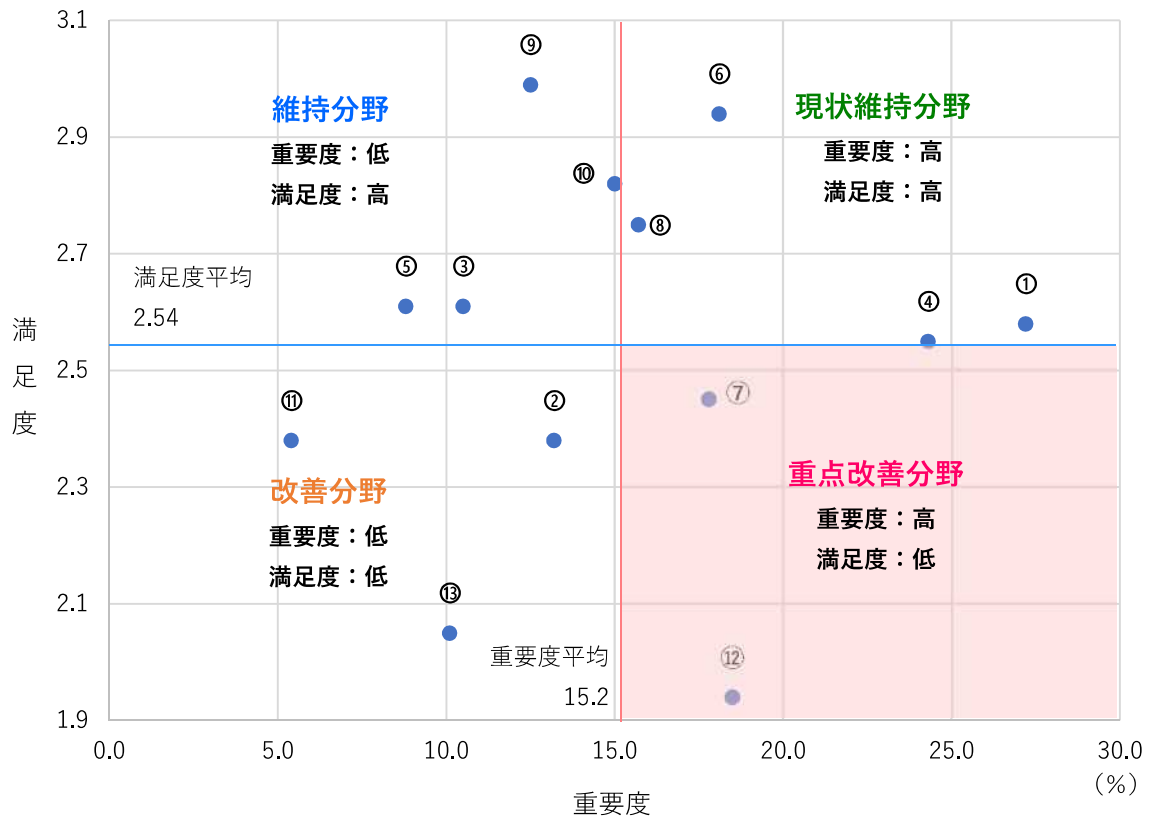
全体では、「満足」と「やや満足」を合わせた肯定的意見は「⑨ 住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている」が 73.7%で最も高く、次いで「⑥ 良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている」が 70.1%、「⑩ 持続可能なインフラ整備が進んでいる」が 63.2%、「⑧ 日常の安全安心が確保されている」が 59.7%と続いており、住宅環境としての評価の高さが読み取れる結果となっています。

一方で、「やや不満」と「不満」を合わせた否定的意見は「⑫ 人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている」が 44.4%で最も高く、次いで「⑬ 急速な社会変化に対応できる組織になっている」が 42.9%と 4 割を超えており、少子高齢化・人口減少等の社会変化への対応力、今後を見据えた持続可能な行政運営への評価がやや低いことが読み取れる結果となっています。

■ 評点と重要度による散布図の提示

13 項目の施策目標について、

- ・ 縦軸を満足度とし、「満足」に 4 点、「やや満足」に 3 点、「やや不満」に 2 点、「不満」に 1 点の係数をかけ、母数（選択した回答者の数）で割って平均した評点を示しています。
- ・ 横軸を重要度とし、問 21（今後特に力を入れて取り組むべき施策）において 13 項目の中から選ばれた、今後重要と考える分野（3 つ選択）の出現率を示しています。



満足度と重要度の散布図をみると、「⑦ 災害に強いまちづくり」、「⑩ 人口減少社会に対応した行財政運営」の 2 項目は満足度が低い一方で、重要度が高い項目となっています。⑦ としては、主に防災対策の充実、啓発・広報の充実が、また、⑩ としては、主に子育て世帯を含む若年層への支援が求められており、今後、重点的な取組が求められる項目となっています。



施策の目標を選んだ意見や理由

⑦ 災害に強いまちづくりが進んでいる

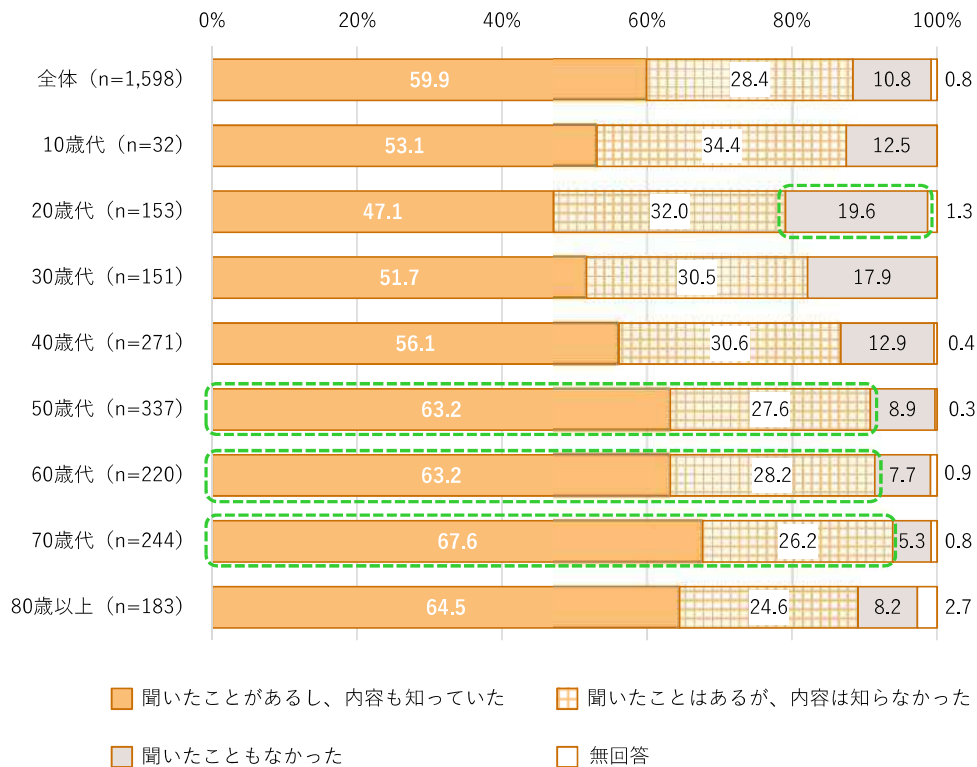
- 防災対策を充実させてほしい
- 啓発・広報を充実させてほしい
- 地震対策が必要
- 起こりうる災害および被災時の心配や不安

⑩ 人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている

- 子育て世帯が住みやすい施策を充実させてほしい
- 若い世代が住みやすい施策を充実させてほしい
- 高齢化社会への対策をすべきである
- 人口減少社会への対策をすべきである

3 市民マナー条例について

- ◆ あなたは、芦屋市の「(通称) 市民マナー条例」(歩行喫煙の禁止、犬の放し飼いや糞の放置、指定区域内でのバーベキューなどの禁止)をご存知ですか。



年代別では、概ね年代が高い程、市民マナー条例について『知っている』(「聞いたことがあるし、内容も知っていた」+「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」)割合が高くなる傾向がみられ、50歳代から70歳代では9割を超えています。

一方で、概ね年代が若くなるほど「聞いたこともなかった」が高くなる傾向がみられており、20歳代では2割近くを占めています。多様な媒体を通じて周知に努めていくことが必要です。

? 市民マナー条例では何が決められているの？

市民マナー条例では、公共の場所等で次のことを禁止しています。

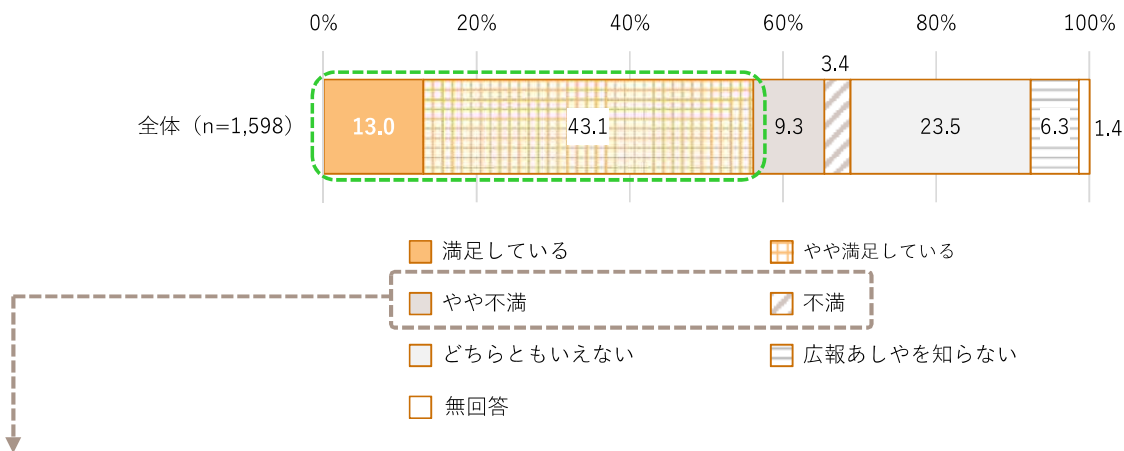
- ① 歩行中や自転車乗車中の喫煙(歩行喫煙等)
 - ② たばこの吸い殻や空き缶等のポイ捨て
 - ③ 犬の放し飼いやふんの放置
 - ④ 夜間花火(午後9時から翌朝午前6時まで)
 - ⑤ 落書き(他人が所有する建築物等への落書きも含む)
- ※他にも、区域を指定した違反行為(指定区域内での喫煙、バーベキュー、プレジャーボート等による航行)があります。
- ※違反行為には過料、罰金が科せられます。

詳しくはこちら



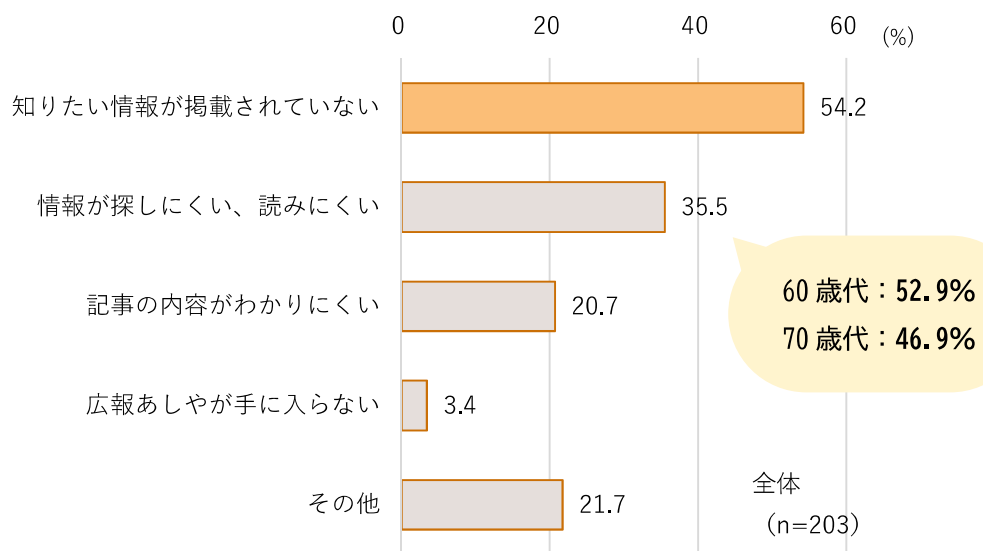
4 文化的なふれあいや学びについて

◆ あなたは、「広報あしや」に満足していますか。



(「やや不満」・「不満」と答えた方に)

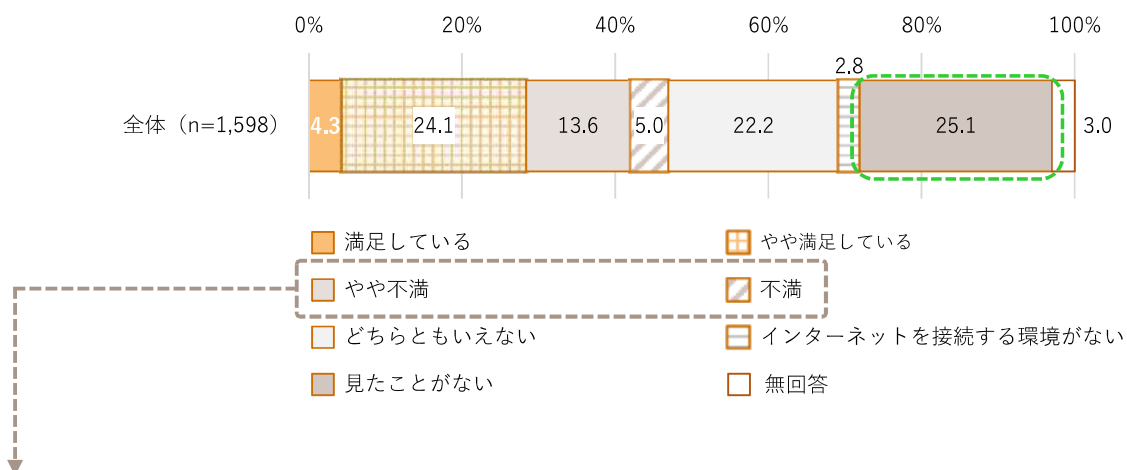
◆ 「広報あしや」について不満の理由は何ですか。



「広報あしや」の満足度については全体で『満足』（「満足している」＋「やや満足している」）が5割を超えています。

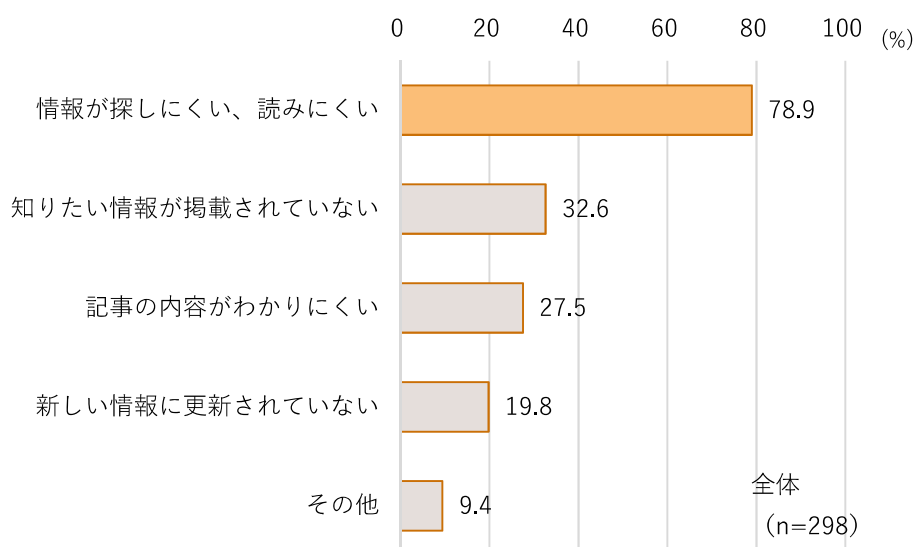
一方で『不満』（「やや不満」＋「不満」）と回答した人に不満な理由を尋ねたところ、「知りたい情報が掲載されていない」が5割を超えて最も高くなっています。また、年代別では60歳代と70歳代で「情報が探しにくい、読みにくい」が全体より10ポイント以上高くなっています。

◆ あなたは、「市のホームページ」に満足していますか。



(「やや不満」・「不満」と答えた方に)

◆ 「市のホームページ」について不満の理由は何ですか。



「市のホームページ」の満足度については約4人に1人が「見たことがない」と回答した結果となっています。

また、『不満』(「やや不満」+「不満」)と回答した人に不満な理由を尋ねたところ、「情報が探しにくい、読みにくい」が7割を超えて最も高くなっており、容易に検索できるよう改善が求められています。

5 新型コロナウイルス感染症の影響について

- ◆ 今後、市に重点的に取り組んでほしい施策はありますか。

年代	1 位	2 位	3 位
10 歳代 (n=32)	安定した医療体制の確保 40.6%	子育て支援の充実 37.5%	スポーツや文化活動機会の充実 31.3%
20 歳代 (n=153)	安定した医療体制の確保 42.5%	行政手続きのオンライン化の推進 34.0%	子育て支援の充実 33.3%
30 歳代 (n=151)	子育て支援の充実 60.3%	安定した医療体制の確保 44.4%	学校教育の学習支援の充実 37.1%
40 歳代 (n=271)	安定した医療体制の確保 50.6%	子育て支援の充実 38.4%	学校教育の学習支援の充実 38.0%
50 歳代 (n=337)	安定した医療体制の確保 64.4%	感染対策に関する明確な情報発信 32.3%	高齢者・障がいのある人の生活支援の充実 25.8%
60 歳代 (n=220)	安定した医療体制の確保 62.3%	高齢者・障がいのある人の生活支援の充実 35.9%	感染対策に関する明確な情報発信 34.5%
70 歳代 (n=244)	安定した医療体制の確保 58.2%	感染対策に関する明確な情報発信 52.5%	高齢者・障がいのある人の生活支援の充実 42.6%
80 歳以上 (n=183)	安定した医療体制の確保 60.7%	感染対策に関する明確な情報発信 48.6%	高齢者・障がいのある人の生活支援の充実 47.5%

30 歳代を除く全ての年代で「安定した医療体制の確保」が 1 位となっています。30 歳代では「子育て支援の充実」が 1 位となっています。

その他、10 歳代では「スポーツや文化活動の機会の充実」、20 歳代では「行政手続きのオンライン化の推進」、30 歳代と 40 歳代で「学校教育の学習支援の充実」、50 歳以上では「感染対策に関する明確な情報発信」、「高齢者・障がいのある人の生活支援の充実」が上位 3 位となっています。

主に若い世代でポストコロナに向けた取組や子育て支援でのニーズが高い一方で、高齢の世代になる程、感染対策を意識した生活支援のニーズの高まりがうかがえる結果となっています。